

ギャルで強気巨乳なお姉ちゃんと制服やスリムでの濃厚ハッチー！

魔法新撰組
Maho-Shinsenagumi

処女

ギャルで大好きな
お姉ちゃんは
ボクの性処理係!?
処女 だったから 中出ししちゃった



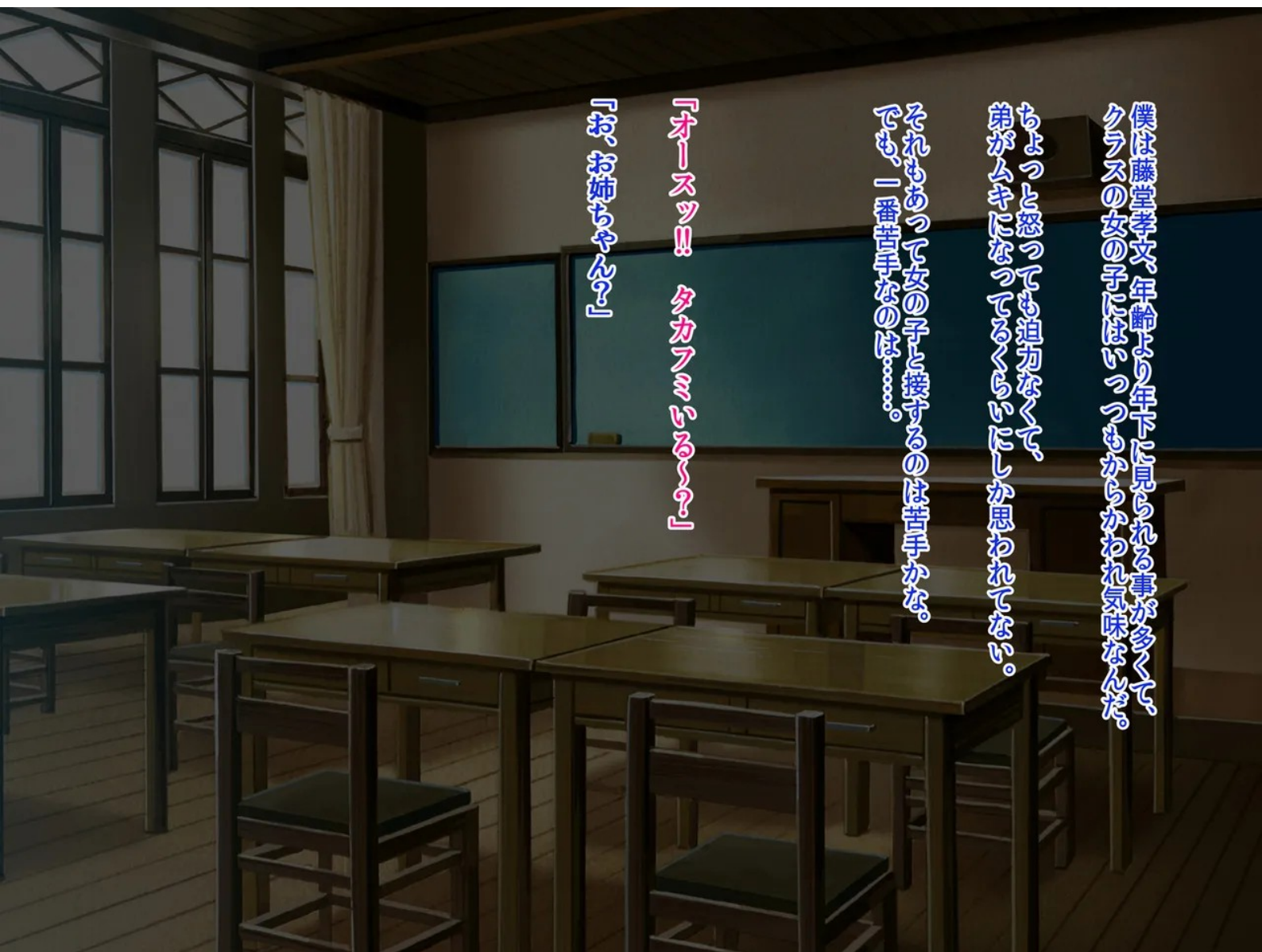
僕は藤堂孝文、年齢より年下に見られる事が多くて、
クラスの女の子にはいつつもからかわれ気味なんだ。

ちよつと怒つても迫力なくて、
弟がムキになつてくるくらいにしか思われてない。

それもあるて女の子と接するのは苦手かな。
でも、一番苦手なのは……。

「オースツ!! タカフミいる??」

「お、お姉ちゃん?」



この突然、教室に入ってきたのは僕のお姉ちゃん、藤堂絵里那。

昔は綺麗で優しくかったけど、ギャルっていうのかな？
最近はなんだかわけばしくて言葉遣いも変なんだ。

夜になるとこっそり部屋を抜け出して夜遊びしてるみたいだし……。
「弟とつるんでるとかガキじゃあるまいし」とか言つて、
家の中でもちゃんとお話してない。

そんなお姉ちゃんが自分から僕の所に来るなんて凄く珍しい。
こういう時はアリバイ工作とか良くないこと言ってくるんだけど。



「今日はどうしたの？
いつもは呼んでもないのに来るなって言うのに。
お姉ちゃんの方から僕の所に来るなんて」

「そ、それはその……まあ、大事な用があつて」

「？」

「それよりタカフミは何してたわけ？
慌てて何か隠したの見たんだから。
もしかしてエロ本？」

「も、もう、そんなじゃないよぉ」



「隠す事ないじゃん。いいから、見せなよ。ほくらっ！」

「あ……」

「……なぐんだ、ただの目誌じゃん。
なんで隠してるわけ？
タカフミも男になったかって期待しちゃったじゃん」

「だ、だって、何書いたか見られると恥ずかしいし……」

「はあ？ 何、男の癖に恥ずかしがってんの？
チンポついてないの？
赤いウインナーみたいなチンポ取れちゃったわけ？」



「ち、ちん……だ駄目だよ、お姉ちゃん。
お女の子がち、ちん……ぽ……だなんて」

「バツカじゃない？ チンポじゃなきゃ何？
陰茎？ それともペニス？」

「あうう……」

「キヤハハッ！ 顔真っ赤！ 男の癖におつかしいーっ!!」

「お姉ちゃんの意地悪う……」

「でもさ、アタシ、基本サボってるけど、
目直つてふつー二人組じゃん。
なんでタカフミ一人で目誌書いてんの？」



「え、えと、それはもう一人の子が用事があるからって先に帰っちゃったから……」

「はあ？ それってサボリじゃん」

「え？ そ、そうなのかな？」

「決まってるっしょ。」

「タカフミ、目直の仕事押し付けられたんだって」

「う……」



「だから、こんなのテキトーでいいじゃん、テキトーで
せんせーだつてテキトーにしか見てないって」

「あ……」

（お、お姉ちゃんの胸が……そんなの見えちゃったら
はうっ！ おちんちんがおっきくなっちゃううう）

「どうしたの、タカノ…… おじいちゃんやっ！……」

「な、何も見てないってばあ」

「何も見てないって……あ」



「くふふ、おっぱい見てたんだ。タカフミのスケベ」

「か、勝手に目に入っちゃったんだよお」

「やっぱりタカフミも可愛い顔してキョーミあるんだ、こーゆーの。だったら遠慮いらないよね」

「興味って……お、お姉ちゃん!？」





ズボン引つ張っちゃ
駄目だつてばあ!!?
脱げちゃうよお!!

いーじゃん
減るもんじゃないし。
あはっ!
頑張って!
テント張っちゃって。

ほーら、
お姉ちゃんに見せなさい!

フッフッフ



駄目えーっ!!

え……?

な、な、な、な、な
なんなのコレエ!?

お、お姉ちゃんのエッチイ!
じろじろ見ないでよお……

ど、ど、どうして
こんな大きいわけ?
バナナみたいにかくて
振り返ってるし。

うるん♡

タカフミのチンポって
タコさんウインナー
みたいなの
ちつこい奴だったでしょ?



それって一緒に
お風呂に入ってた頃の事？
もう何年も前だよ

そ、そんなあ、
タカフミの短小包茎の
ウインナーチンポ
だったら

全然大丈夫だと
思ったのに……

びくっ
びくっ
びくっ

ビクッ
ビクッ
ビクッ



大丈夫って……？

な、何でもないっ！
ア、アタシはガツコでも
有名なビッチな
ギャルだし？

こんなへなちよこ
弟チンポより
デカイの何本も
見た事あるし？
全然平気なんだから！！



お、落ち着いて、
お姉ちゃん

こ、こんなチンポ
なんてチンポなんて……

はう、お姉ちゃんの
息が掛かってる
くすぐりたいよお

ビクッ
ビクッ
♡

ズクッ！

……すごい、
ピクピク震えてる。
熱くて破裂しそうな
くらいピキピキ
しちやつてるよお

あ、ああ……
お姉ちゃんの指が
おちんちんに

はあ……凄い匂い。
このベタベタしてるのが
先走り汁つて奴？
皮の中からも
エッチな匂いが
しちやつてるが

ズン
グニ
グニ





な、舐めちゃってる……
お姉ちゃんが
僕のおちんちん
舐めちゃってるよお

あはあ……タカフミ、
ここいいんだ。
いいこと知っちゃった

ギョッ
ギョッ

あ

あ

お姉ちゃんの口、
温かくてヌルヌルして
凄いよお。
おちんちん溶けちゃったら
どうしよお

はっ！

あふう、舐めても
舐めても溢れて来ちゃう……
顔中、弟汁で
べとべとしちゃいそう

ペロッ
ペロッ
ペロッ



お姉ちゃん、
ボクもう……もう！

タカフミ？

お姉ちゃん、
ごめんなさいっ！

びゅん
びゅん

ガクッ
ガクッ
ガクッ



ああ

きやあつ!?

ぐわん

いーるー
っ♡

だ、出しちゃった……
お姉ちゃんの顔に
出しちゃったよお……

い、今拭くから！
じつとしてて！
えと、ティッシュ
ティッシュ……

……

でも、この匂い
臭いでると
体が熱くなっちゃう

これがタカフミの
せーえき？
すごく濃くて粘ついてて
くっさあい……

びくっ
トロっ

はぁ

はぁ

ビクッ
クッ
ッ！

そうよ。
アタシはこの弟チンポで
今日こそ絶対に……

お姉ちゃん、どうしたの？
なんか怖い顔して

じ、じつとしてて！
大丈夫、痛くないから！

あ……





な、何してるの？

はあ、はあ

な、何って、その、
み、見りや判るでしょ！

わ、わかんないよお

なんだかお姉ちゃんが
怖い顔して

お、おちんちんに
パンツこすり
つけてるとしか

ヌルッ

ヌルッ



そ、それだけ判つてりや
十分でしょ!

でも、お姉ちゃんは
僕のお姉ちゃんだよ!

そんな事したら
怒られちゃう……

その、チンポ勃てた男と
股開いた女が
何するなんて!

ヌルッ

ヌルッ

ていっく

んっ



アタシがいつて
言ってるんだから良いの！

はぁっ
はぁっ

ひゃあ!?
だ駄目え!?

フルッ

フルッ

ビュッ
ビュッ



お姉ちゃんのおまんこ
お肉が布越しに僕の
おちんちんを擦ってる!?
こんなの気持ち良すぎるよお



堅いチンポの先が
アタシのお豆を弾いて……
ひい!!

はあ……あ、あひい!
弟チンポがさつきより
ずつと堅くて
熱くなっちゃってる……

ふぁあっ!

あぁっ!

お、お姉ちゃんのパンツが
濡れてきちゃってる……

フルンッ

ガクッ
ガクッ



お、おねしよじゃないから！
おしつこと違うからあつ！！

あっ♡あっ♡

そんなの言っていないよお

ぬるっ♡



ああ……やだ、
やっぱり感じちやってる。

こんな弟チンポに反応して、
エッチなお汁が
止まなくなってるう……
こんなに濡れ濡れな今なら……



タカフミ、ごめんね！

あ……っ!?

ピ
ク
ッ
ッ
ッ



わねっ!!

あっ

お姉ちゃん!!

ぐっ
ぐっ
ぐっ

ぐっ
ぐっ
ぐっ



お姉ちゃんのおまんこに
僕のおちんちん
入っちゃった……
ど、どうしよお

はあ

あ……あ……
う、う、う……

お姉ちゃん？
どうしたの……え？

ガクッ

スルン♡

スルン♡





アタシが自分で
弟チンポをおまんこに
入れたんだから!

アタシの偽ビッチ処女膜、
デカチン弟にくれてやっただから!

ぐちゃぐちゃ

キュッ
キュッ



そういう機会は
何度もあつたけど、

よく知らない男とかと
するの怖くて
いつもドタキャンで逃げて……

あのね、アタシ、
やりまくってる
みたいな事言つてたけど、

ホントは一回も
したことなかったの



でも、そろそろ、そういうので
逃げ切れそうじゃない
雰囲気になっちゃって、

バレたらグループから
速攻ハブられちゃうかも
しれなくて……

でも普段男と
やりまくってまーすみだいに
フカしてたから、



だから、今度エンコー
誘われても
大丈夫なように、

ウインナーチンポの弟と
すれば恐くないし
痛くもないかなって……

お姉ちゃん……



一生懸命チンポチンポ
言ってるけど、

だ、だから、
これ一回きりにするし。
もうしないから。
だからだから……

あ♡

きやうっ!?

ホントはおちんちん
苦手なバカエセビッチ
お姉ちゃんでごめんね
タカフミ……



でもお姉ちゃんの事、
僕嫌いじゃないから……

そ、その、
お姉ちゃんとか
こういうのするの
いけないけど、

タカフミ……？



それにお姉ちゃんの胸（なか）、
すつごくニユルニユル
キユツキユと締まってて
気持ちいいから

僕はずっと
このままでいたい





つ、強すぎい、
タカフミの童貞おチンポお！
こんなに激しく
動いたらアタシ、

アタシの初心者まんこはあ……
耐えられないい！

ひゃあっ♡

あっ

やあ！
いくう……
いつちやうううう！

ズチュ♡

ズチュ♡



あひい……
は、初めての弟チンポで
気持ちよくなっちゃたよお

お、お姉ちゃん……
まだ……

わかつてる……
姉膜貰ってくれた
ご褒美に最後までしていいよ



わあ……
お姉ちゃんのおまんこ
丸見えだよお。

お尻の穴まで
見えちゃつてる

はぁ♡

ヒクッ♡

ヒクッ♡

いちいち言わなくて
良いわよ、
恥ずかしいんだから……





や、やだ、
タカフミに褒められて
アタシのおまんこ、
超喜んじやってるう。
もう待ちきれない!!

も、もう!
タ、タカフミ、
何モタモタしてんのよ!
は、早く入れなさいよ!!

わ、判ってる。
じゃあ、行くよ……



ん、んくう……
あ、あう……
お姉ちゃんの開封済みおまんこ、
まだまだぎゅうぎゅうだよお

ビーン
ビーン
ビーン

あぁ

いきなり脳にきたあ！
これマジヤバイ……
弟チンポにアタシのまんこ、
負けちやいそう

んはあ！

ぷんっ
にゅるっ

にゅるっ
にゅるっ



あつ、あつ、
そんなに突いたら
奥が、奥があ

あ

あ

あ

お姉ちゃんのおまんこ、
いい……
こんなおまんこに
入れちやつたら

もう他のおまんこなんか
おちんちん
入れられないし
オナニーも出来ないよお

キョ

キョ

キョ

キョ



お姉ちゃん……
お姉ちゃん……
僕のお姉ちゃん！

ぎゅ

ぎゅ

ふあつ……
あああああ……！

まだ二回目なのに、
ずんずん感じちやつてる……
マジヤバイ……
弟なのに、年下なのに……

いっ
ぱん

す
ちゅ

す
ちゅ

す
ちゅ



おまんこはコイツに
従うしかないって
認めちやつてるう

いん
いん

あ
あ

お姉ちゃん、
出ちやう、出ちやう

あひい!
中は駄目え!
出来ちやう!

いん
いん

ぞく
ぞく

きん
きん



弟せーしと姉らんしで
ごっつんこして
子供出来ちゃう!
外に、外にい

ひゃあ、あああつ!

ひゃく

ひゃく





ごめんねさー
お姉ちゃんに
いつばいかけちゃった……

あ、あん……
あ、熱い……
アタシ、弟にマーキング
されちゃったんだ……

はぁ……

ワンちゃんみたいなの
格好でせーえき
お便所扱いされちゃった……

いーるん♡

びゅん
びゅん
びゅん

びゅん

びゅん



あたしもこれで
チンポ大好きな
ビツチなのかな……？

でもほかの奴等のチンポって
タカフミのビキビキチンポより
凄いのかな？
やだな、タカフミのチンポより
しょぼかったら

アタシの……
アタシの大好きなチンポは……



お、お姉ちゃん……
ごめんなさいっ
ボクもっ……もっとお!!

え? ちよ、ちよつと
まっ……
まださつきイッたので
身体が……

んっ♡

ぬいっ♡





はぁっ

ぱんっ

はぁっ はぁっ

あぁっ

ぱんっ

あ、あんっ！
やあああつ……
まだ中にさっきの
タカフミの精液が
残ってるからあつ！

はぁっ……はぁっ……
おねえちゃんっ
おねえちゃんっ！！

とまらないっ……
とまらないよおっ……



精液で私のおまんこ
ぐちゅぐちゅになつてえ
はぁあんっ……

うんっ…
さつきのボクの精液で
おねえちゃんのおまんこ
ぐちゅぐちゅになつてて

ボクのおちんちん
ぬるぬるで
すぐ動いちゃつてえ
はぁあんっ!!



あ、あ、おねえちゃん
いっちやううっ
ダメだめだめえっ
子宮の奥から
いっちやううう!!

うんっ!!
ボクもっぽくも
でちやうでちやうようっ!!

ふあああああああ
あああああああ!!

はあああ
あああああ!!



あの後、僕もお姉ちゃんもしばらくぼんやりしちゃってたけど、下校時刻を知らせる放送に我に帰って、慌てて後始末して逃げるように帰った。

おかげで目録を出し忘れちゃってて、次の日、先生にも怒られたけど、そんなの全然気にならなかった。

お姉ちゃんとした事で頭でいっぱいだったから。

こんなの駄目だよ、だってお姉ちゃんなんだから。
ホントはエツチしちゃいけないし、お姉ちゃんはやっぱり美人でおまんこも凄いもん。

僕じゃお姉ちゃんと釣り合わないよ。

それにお姉ちゃんもいつもより何だかよそよそしくなっちゃって、家でも学校でもわざと避けてる感じ。

お姉ちゃんは僕とした事、どう思ってるんだろ？



「あ……」

「あ……」

「ひ、少し振る……」

「ぶ、うんそうか……」

「それでその……」

「な、何……」

「そのな……だから……」



「……」

「……」

（か、会話が続かない……）

（やっぱり、僕といるの嫌なのかなあ）

「お、お姉ちゃんはどう行くの？」

「そ、その、その次の授業、体育だから……」

「そういえば、タカフミって窓側の席だったよね。だっ、だから、アタシのブルマ見ながら、チンポしこしこしても別に怒んないけど？」

「そ、そんな！ 絶対に見ないよお」

「だって、お姉ちゃんのブルマ姿見ながらしこしこしちゃったらお姉ちゃんに嫌われちゃうよお。」

「でもしたい……お姉ちゃんのお尻に精液かけたい、つてそんなのいけない事だつてばあ！」

「え……？ み、見ないんだ、ふ、ふうん、そっかお姉ちゃんのブルマ見ないんだ……」

「お姉ちゃん？」



(キンコーンカーンコーン)

『あ……チャイム』

クラスメイト女子
『孝文くん、もうすぐ授業始まるわよ』

『うん、判ってるよ』

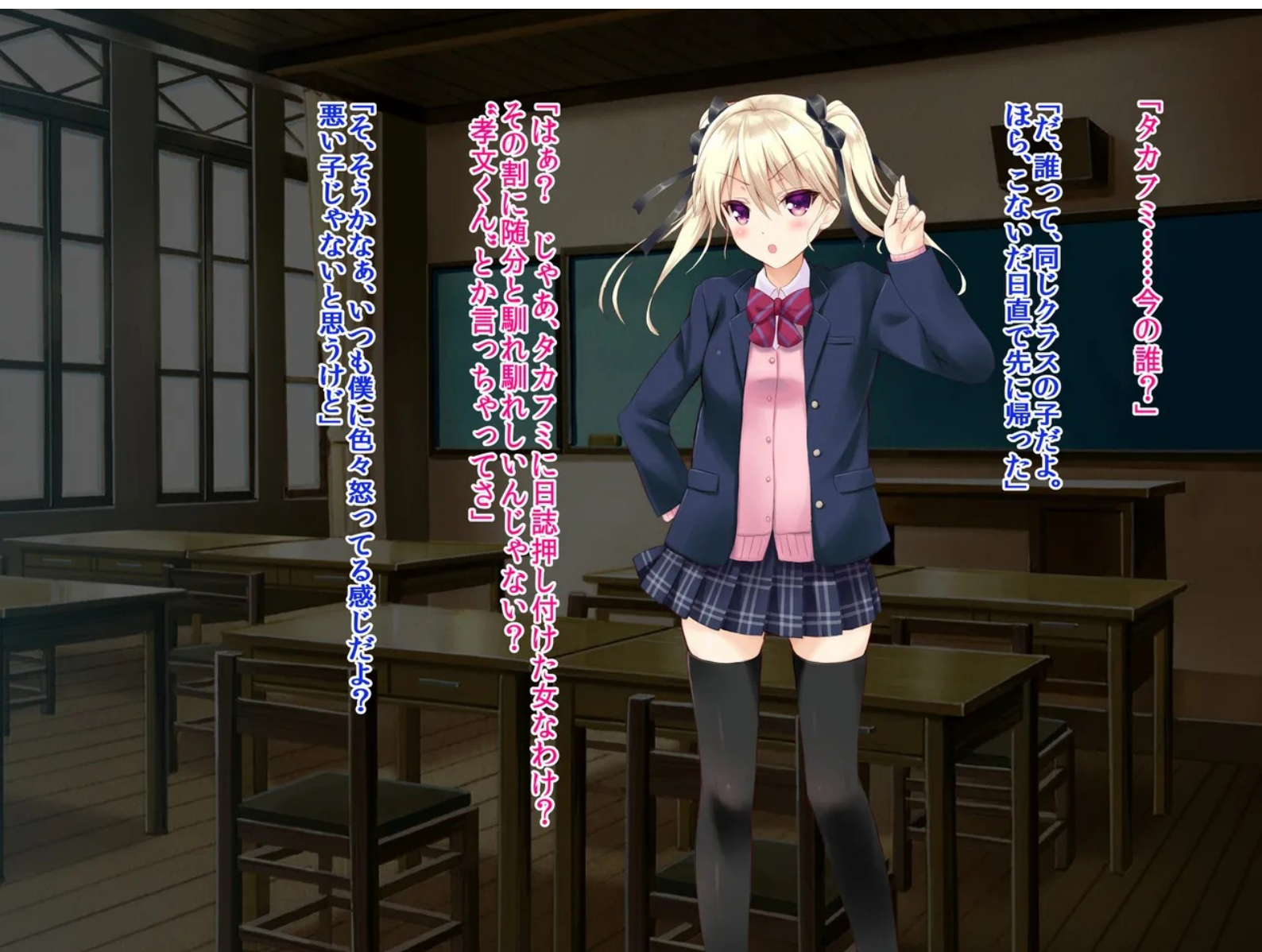
クラスメイト女子
『ホント、孝文くんってグズなんだから、
じゃあ先に行ってるね』

「タカフミ……今の誰？」

「だ、誰って、同じクラスの子だよ。ほら、こないだ目直で先に帰った」

「はあ？　じゃあ、タカフミに目誌押し付けた女なわけ？　その割に随分と馴れ馴れしいんじゃない？　孝文くんとか言っちゃってさ」

「そ、そうかなあ、いつも僕に色々怒ってる感じだよ？　悪い子じゃないと思うけど」



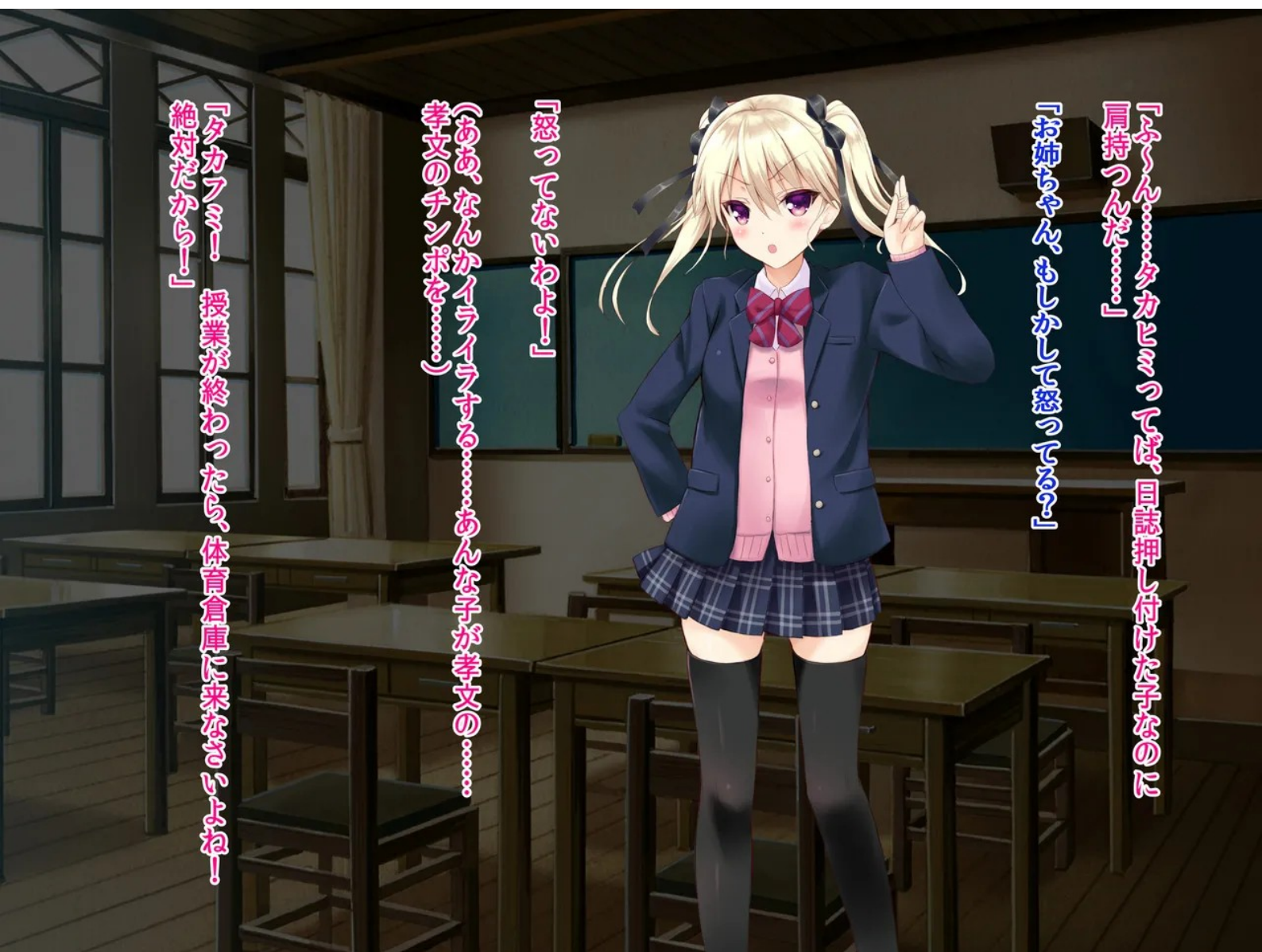
「ふぐん……タカヒミつてば、目誌押し付けた子なのに
肩持つんだ……」

「お姉ちゃん、もしかして怒ってる？」

「怒ってないわよ！」

（ああ、なんかイライラする……あんな子が孝文の……
孝文のチンポを……）

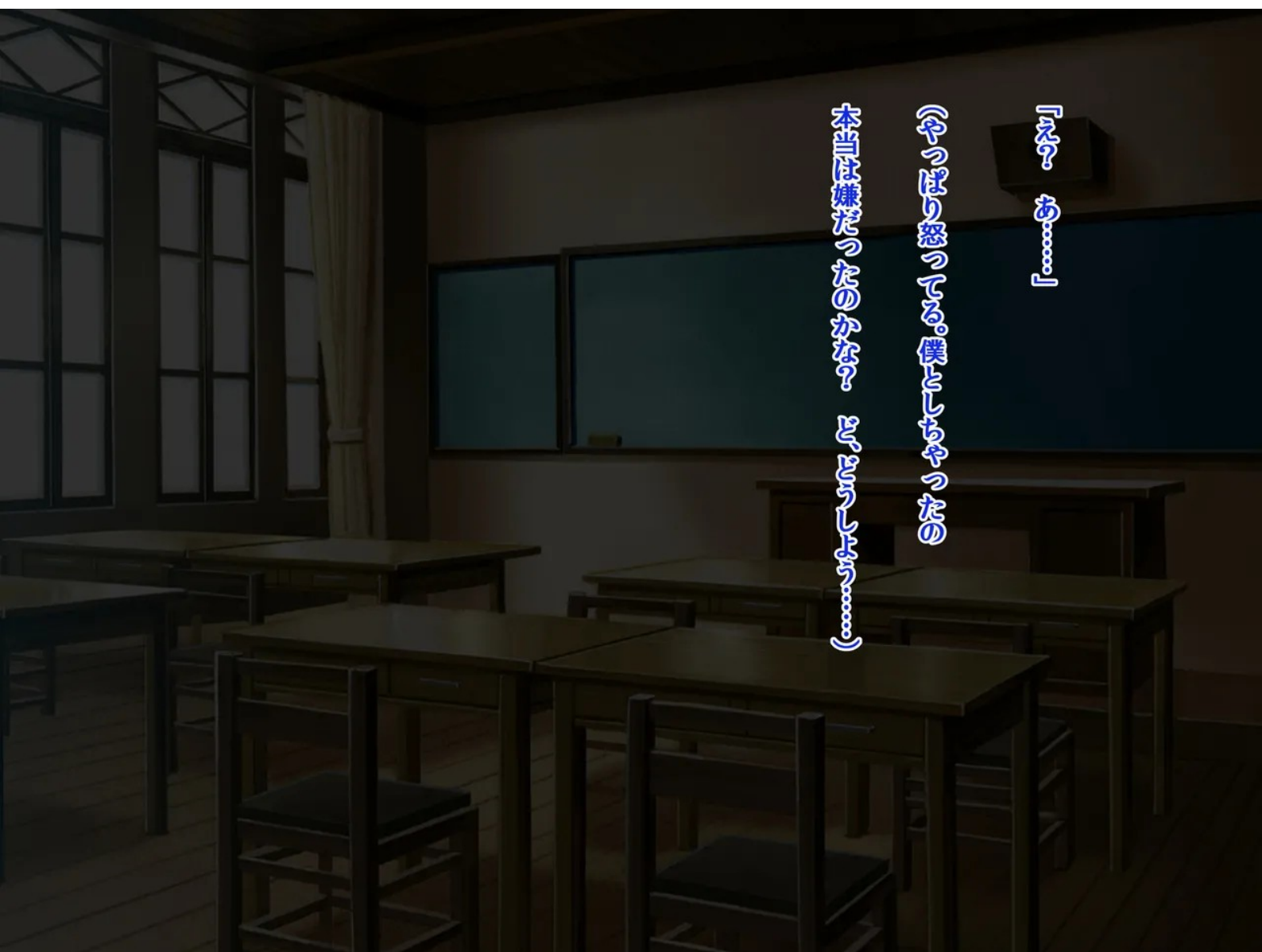
「タカフミ！ 授業が終わったら、体育倉庫に来なさいよね！
絶対だから！」



「えっ あ……」

（やっぱり怒ってる。僕としちゃったの

本当は嫌だったのかな？ どうしよう……）



「はあ……お姉ちゃんに言われるまま体育倉庫に来ちゃったけど」

「お姉ちゃんっっっ。お姉ちゃ……ひゃあっー」

「どどどっしちゃったの、お姉ちゃん。」「恐っよお」

「そんなのどーでもいいっしょ！
それより答えなさい。あの子とはしたの？」

「し、したっつー？」

「目直の目録、タカフミに押し付けたあの女と、その、
エ、エツチなことしたかってことよ!!」

「へ？ し、してないよお」

「ホント？」

「だって、お姉ちゃん以外とするなんて考えられないよお」

（よかつた……タカフミのチンポはまだ
アタシだけしか経験してないんだ）

「そ、そういうお姉ちゃんはどーなの？
その、あれから援交したりして……」

「はあ!? ア、アタシ? し、してるわけないじゃない!」

「でも、僕とエッチしたのは
おちんちんに慣れるためだったんじゃない?」

「それはそうだったけど……そんなのどーでもいいの!」
「アタシはタカフミのチンポ、他の子のおマンコに
入れて欲しくないの!」
アタシの、アタシの初めてのおチンポだったんだから!!」

「お姉ちゃん……」

「タカフミはアタシが他の男のチンポ啜えても
いいと思ってるわけ?」

「それは……」

（お姉ちゃんとはホントはじゅっちゃんかなのかしら。でも……）





うんじやわかんない。
アタシ、バカな
ギヤルお姉ちゃん
なんだから、

ちゃんと判るように
ハッキリ言つて

ぼ、僕、おちんちんを
お姉ちゃんのおまんこに
入れて
ズボズボしたいい！

うふふ、お姉ちゃんのおまんこに
入れたいだなんて、
こーのナマイキチンポめ

ズクッ

ズクッ

ズクッ



ふ、踏んじや駄目え、
で、出ちやうよお

どう？
体育したばつかの
蒸れ蒸れくつしたの
感触は？

はう、生あつたかくて
くつしたの生地が
おちんちんにこすれて、
おちんちん
おかしくなつちやうよお

ふふりん、お姉ちゃんの
凄さを思い知ったか

ぐりっ

ぐりっ

ふっ

お姉ちゃんの
足テクがこんなに
すごいなんて
思わなかったよ

あつたり前でしょ？
もしかしたら、
タカフミがして欲しいと
言ってくるかもって思ってた、

タカフミのチンポ、
うまく足でしごけるよう
にんじんで練習してたんだから

ぎゅーっ

ちゅちゅっ♡



え？ 練習？
もしかしてアレから
僕のために？

え？ あ、
そんなわけないわよお！
たまたま、
たまたまなんだからあつ！！

あせっ

あう！ そんなに
いっぱい踏まれたら
出ちやうう！
出ちやうう！

ま、待つて！
まだしてないことが……

ぐんぐん
ぐんぐん
ぐんぐん

ぐんぐん





いめんなら……

もう、タ、
タカフミってば……

ビクッ
ビクッ
ビクッ

ちくちく
ちくちく
ちくちく

さつきは勢い
ちよつとハードだったね。
今度は優しくしてあげる。
ほら、タカフミが
大好きなオツパイだぞ〜

あふう、
お姉ちゃんのおツパイに
僕のおちんちん
埋まつちゃうう

むにっ♡

タカフミのおチンポ……
タカフミの癖に……
こんなにも立派だなんて。
もう破裂しちやいそう。

お姉ちゃん、早くう

そんなにがつつかない。
お姉ちゃん自慢の
オツパイでタカフミの
おチンポ慰めてあげる……

ビクッ♡
むにゅ

ぱんっ♡



お姉ちゃん、
おちんちんが苦しいよお

はぁ

はぁ

わかつてる。
お姉ちゃんが
タカフミの苦しいの
全部出してあげるね





今日はお姉ちゃんが
してあげる

大丈夫？

大丈夫に決まってるでしょ。
じゃあ、お姉ちゃんの
ギャルまんこで
うんと気持ち良く
なりなさいよね



ふあああ……
お姉ちゃんのぶにぶに
おまんこに
僕のおちんちん
飲みこなれていくう

あひい、
ふ、深いっ!!
子宮に届いちゃうう

あ、ああ……
そんなに激しく
動いたら
すぐに出ちゃうよお

何度でも
出していいから。
アタシの弟チンポは
マジ姉専用なんだし

ふんふん

んん



ほらほら、
我慢とかしちや駄目だつて

弟らしく
お姉ちゃんのおまんこに
びゅっびゅっ
だらしなく、
せーしぶちまけちゃえ

でも、
このままだと
お姉ちゃん
の中に……

びゅん

びゅん

びゅん



おいから弟は黙って
お姉ちゃんの言う事
聞いとけば？

うんっ！
お姉ちゃんの中に、
中にいいで出るううっ！！

うんっ！

うんっ！

うんっ！



あはあ出てる！
弟のピチピチせーし、
いっぱい出てるう！！

しゅごい！
子宮火傷しちゃううう！！

お姉ちゃん……
ごめんなさい……
お姉ちゃんの中に……
精子出しちゃったよ……

ぐっ
ぐっ
ぐっ
ぐっ
ぐっ

ぐっ
ぐっ
ぐっ
ぐっ
ぐっ

いん



いーじゃん別に。
生でした方が
気持ちいいでしょ？

はあ
はあ

それとも、
お姉ちゃんの中、
気持ちよくなかった？

それともゴムつけないと
ビヨーキになるとか
思ってる？

ぐんぐん
ぐんぐん



そんな事……！
お姉ちゃんのおまんこは
とっても綺麗で
気持ちいいよ！

も、もう綺麗とか言うなあ
だったらいーじゃん。
ほら、まだまだ
おチンポ元気だよな？
じゃあ……



お姉ちゃん……
お姉ちゃん……
中がうねうねして
気持ちいいよお!!

ふああ……あ、あはあ
タカキミのおチンポ、
大きすぎ!!

も、もう!
そんなに急いだら
駄目だつてえ
ゆっくりに。ゆっくりに!!

ケッ!!
ケッ!!
ケッ!!

ぐんぐん

にゅる
にゅる





僕にはお姉ちゃんは
合格だよ！
お姉ちゃんおまんこに
百点満点なんだから！

ビク
ウッ
ッ

ひく
ッ

んはあ……
イクウ、お姉ちゃん
イッちゃうう!!

パ
ッ
ッ
ッ

パ
ッ
ッ
ッ





はあ……はあ……
お姉ちゃん、
すつごく
気持ちよかったよ……

うううううう……
弟チンポにまた……
負けちゃった……、
お姉ちゃんなのに……

お姉ちゃんのおまんこが
凄すぎるせいだよ

ちゅゅ
ちゅゅ
ちゅゅ



もう、
タカフミってば

あ……エッチに夢中で
もう授業始まつちやつてるの
気づかなつかったよ！
ど、どうしよう、
お姉ちゃん!!

どうつて……
そうだ！

？

「ね、タカフミ、このままガツコ、フケちゃおうか？」

「えっ、どう……」

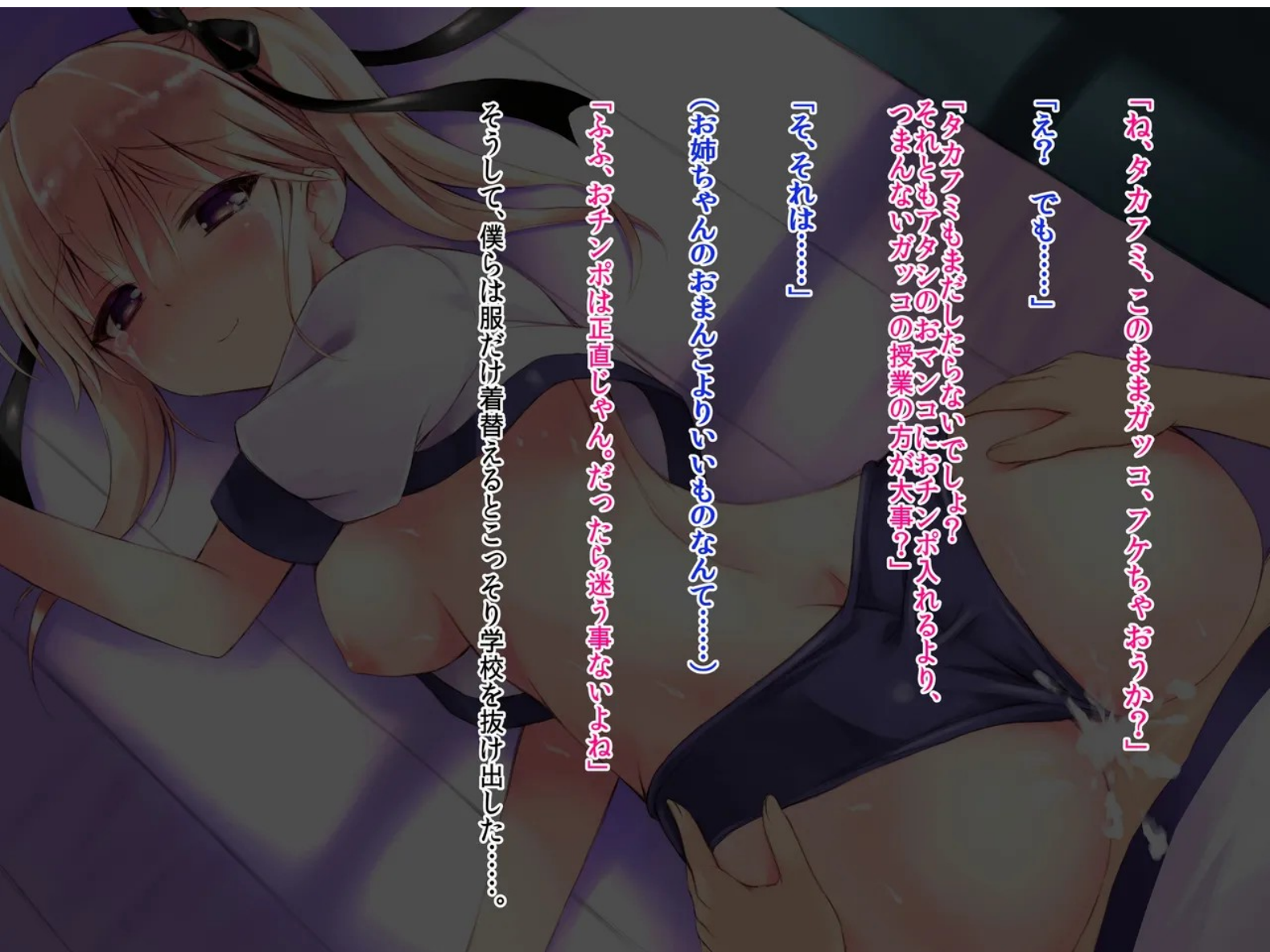
「タカフミもまだしらないでしょ？
それともアタシのおマンコにおチンポ入れるより、
つまらないガツコの授業の方が大事？」

「そ、それは……」

(お姉ちゃんのおまんこはらららなの……)

「ふふ、おチンポは正直じゃん。だったら迷う事ないよね」

そうして、僕は服だけ着替えるところっさり学校を抜け出した……。





ほら、タカフミ、
大好きなオッパイに
おチンポ包まれて
気持ちいいでしょ

ズ
ン
ッ
♡

ベ
ク
ッ
!

にゅるっ♡

くう、石鹸で
ヌルヌルして
気持ちよくなりすぎだよお



あはあ、どんどん
堅くなってきたる……
これならいけそうじゃん

ああ、でも、
僕もう……もう……

ギョッ

ギョッ

わんっ♡

えく？　もう？
今日のタカフミ、
張り切りすぎ！
なつかしくカチカチに
なったの！

でも、今回は
お姉ちゃんの勝ちだね

石鱈のヌルヌルと
オツパイのセツトは
反則だよお

むにっ♡

ちゅーっ♡

ぷっ♡

ムニッ♡





いーわけじゃないよ!
ほら出していいよ!

うん!
僕...僕いっぱい出すう!

ズン

ずく
ずく



ん
ズ..
く
ん..
!

ズ..
く..
ん..
♡

ズ..
ん..
♡

まだしてくれるの？

ビクッ
ビクッ
♡

はぁ……もうこれで何回目？
まだまだドロドロ
ざーめんじやん。
これならまだまだ
頑張れるよね

とーぜんじやん。
今度はアタシを
いっぱい
気持ちよくしてよね



入れるよ……

んはあ！
ビツチビチの
弟おチンポ来たあ！！

はう、この感触……
にゅぷにゅぷして
やつぱりお姉ちゃん
おマンコが一番だよ！

ヒクッ♡

ヒクッ♡





んひい！
奥にズンときたあ！
子宮に響いちやう！！

お姉ちゃん、
お姉ちゃん……

やだ、タカフミ、
そんなに愛おしそうに
見ないで……

そんな目で見られたら、
お姉ちゃん……あはあっ！

ビクッ

ズン

ヌフッ

ビクッ



タカフミ、アタシ……
タカフミの事、好きい！

はぁっ
はぁっ

お、お姉ちゃん！

お姉ちゃんの全部、
タカフミにあげる！
だから、だから
お姉ちゃんのこと、
好きになつてえ！！

きゅんっ

きゅんっ

ズクッ



お姉ちゃん……
僕の事、キライじゃないの？

キライなはずないでしょ！
ギャルになったのも
弟とずっとつるんだとか
恥ずかしかったのかなの！

でも、今そんなの
どーでもいい！

びく

あゝ
あゝ

びく
にゅる

にゅる

にゅる

口でなんて言っても、
もうおまんこは
タカフミのことしか
考えられない！

タカフミの、
おチンポが欲しいのっ

お姉ちゃん

キュン♡

キュン♡



ビクッ

ビクッ

はぁん♡

んひっ! 強くしないでえ!
これまで避けてたの
謝るからあ!

パチュン

んくっ
んくっ

パチュン

ううん、許さない!
これはお姉ちゃんへ
のお仕置き!

僕は...僕はずっとずっと
お姉ちゃんの事
大好きだったんだから

オナニーだってお姉ちゃん
の写真見ながら
ずつとしこしこ
してきたんだよ!



大好き……？
あん　タカフミ、
そんなこと言われたら、
アタシ、アタシ……

びくっ

パンッ♡

パンッ♡

んっ！
お姉ちゃんの中、
さつきよりキュッときたあ！

タカフミ、中に
いっぱい出してえ！
お姉ちゃんのおマンコを
弟ザーメンで
タップタプにしてえ！



いいの？
いっぱい出しちゃったら……

はぁ

はぁ

その時はその時。
もちろん、タカフミが
パパになつて
くれるんでしょ？

勿論！ 僕、パパになる！
だからお姉ちゃんを
孕ましてギヤルママに
してあげるね！

んっ

んっ



んぎい！
お姉ちゃん、
ママ予約されて
体が喜んじやうう！

がくっ がくっ

お姉ちゃんの
ど真ん中に
精子ぶっかけやうよ

うん、早く早くう……
お姉ちゃんを
ギヤルママにしてえ！

そ、そろそろ……
うくう！

ひゅっ
ひゅっ



はああああつ!!
でてるうでちやつて
ううう!!

あはあ
弟チンポに負けちゃう
駄目まんこお姉ちゃん
ごめんなさい!

お姉ちゃん、弟おチンポで
幸せになっちゃうう

ぐうん♡

ぐん♡

びくんっ

びゅるー♡

あゝあ、いっぱい出しちゃったね。
こんなに出されたら五つ子出来ちゃうかも

うん、でもこれでお姉ちゃんはボクのものだよね？

生意氣い、タカフミがお姉ちゃんのギヤルマンコの
専属チンポになったんだからあ

援交とかしないよね？

するわけないじゃん。タカフミのおチンポが
相性サイコーなのに。
その代わり、タカフミはアタシに毎日してよね。
他のマンコに浮気とかしたら許さないから

わかってる。だからお姉ちゃん

ん？

今度結婚しようね

あん タカフミってば……馬鹿あ☆



そ、そんなこと言われても
目隠しされちゃつてたら
何も見えないよお……

ズクッ？

お姉ちゃん、どう？
鏡に映ってるの
判る？

ぱん

ひくっ♡
ひくっ♡



そ、そ、うだよお……

あ、ゴメン
そういえばそうだったよね



今日はお姉ちゃんとの
結婚初夜……

お姉ちゃんはあれから
めつきり真面目に
なっちゃって
髪の毛も元の黒い髪に
染め直しちゃった



今日は結婚初夜の
プレゼントを用意して
おいたんだよ

え?





ズクッ

いん

る

ひやあああああつ!!
あ、あつはあああつ!!

な、なにこれえええ!?
わ、わたしのおまんこに
なにかはひつてりゆうつ!!

グ
グ
グ
グ
グ
グ

あ、あ、あああつ
な、おがはいつてり
のおおおおっ!?
ゆ





あ、目隠し
取れちゃった

ああ……
やあああ……
は、はずかしい……



な、なんか今日のたかふみ
いつもとキヤラ変わってない？

お姉ちゃんがいけないんだよ
髪の毛を昔に戻しちゃうから
ボクも昔みたいになつちや
つたんじゃないか



お姉ちゃん、
髪の毛染めてた時は
こんな感じだったけど

やっぱり今みたいにな
黒髪のほうがいいな



あ、あ、はあああああつ
き、きもちいいいっ!!
きもちいいよおおおっ!!

びく
んっ

いっちやううううっ
いっちやううううっ
はだめだめだめえええっ
はだめだめだめえええっ!!

びく
んっ



これからお姉ちゃんとの
新しい生活……
毎日こうやってえっちな
ことをやり続けて……

そしてお姉ちゃんに
子供を産んでもらって
楽しくやっていくんだ
……















































































































































































































